

大学・研究機関等研修における効果の検証

学校経営支援課 田上 裕之 村田 光 (現富岡東高等学校)

要 旨

徳島県立総合教育センターにおける教職員支援の特色ある取組として挙げられるのが、「大学・研究機関等研修」である。本研修は、県教育委員会と県内大学・研究機関等との連携による研修であり、教職員の各教科等に関する専門性を高めることを目的としている。本研究では、平成26年度大学・研究機関等研修を受講した教職員を対象として、研修が終了して半年後の3月に受講者の意識・行動の変容、児童生徒の反応、研修の在り方等についてアンケート調査を実施した。

その結果、「博物館の資料を使用し、化石の観察を通して考える授業を展開した」、「部活動のウォーミングアップに取り入れた」等、学校現場における授業の活性化につながる成果が見られた反面、工夫・改善すべき課題もいくつか見出された。

キーワード：大学・研究機関等研修，活用，変容

I はじめに

当センターは、平成16年度の開所以来、大学・研究機関等研修を開講している。夏季休業期間に10年経験者研修の受講者が選択する講座として開講したが、10年経験者研修以外の教職員も、希望者は受講できることとしている。

研修場所は、県と連携している県内4大学をはじめ、研究機関等において実施しており、研修内容については、教科指導や生徒指導に関する講座、各大学・研究機関等の特色を生かした講座が開設されている。ただし、具体的な研修内容については、大学や研究機関等に一任している。

平成26年度は7月24日から8月25日までの期間に、鳴門教育大学、徳島大学工学部・総合科学部、徳島文理大学、四国大学、徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校、徳島県立博物館、阿南市科学センターにおいて合計19講座を実施した（資料）。

研修終了直後に行ったアンケートにおいて、「研修講座は、今後の教育実践に生かせるか」に対する回答を全講座において平均すると、「大いに生かせる」が61.2%、「概ね生かせる」が36.8%、合計は98.0%であり、いずれの研修内容についても、ほとんどの受講者が生かせると考えていたことが窺えた。しかし、学校現場において、実際にどのように活用され、どのような効果があったのかを検証しなければ、本研修の目的が達成されたとはいえない。

そこで、本研究では、平成26年度の本研修を受講した教職員に対して、アンケート調査を行い、研修終了から半年間で、研修の内容がどのように生かされたかを検証することにした。

II アンケートの結果から

1 アンケート調査の方法と内容

平成26年度の大学・研究機関等研修を受講した教職員を対象に、表1のとおり13の質問についてアンケート調査を実施した。

実施期間 平成27年2月から3月
 対象者 平成26年度大学・研究機関等研修受講者
 調査人数 139名（延べ）
 回答者数 120名（延べ）

表1 アンケート調査の質問項目

質問	内容
質問1	あなたの採用後の教職経験年数はどれですか。 ① ～10年 ② 11年～20年 ③ 21年～30年 ④ 31年～ ※講師，助教諭等の方は①を選択してください。
質問2	あなたが受講した研修講座は何ですか。
質問3	研修講座を受講後，学んだことを授業等においてどの程度活用しましたか。 ① 大いに活用した ② ある程度活用した ③ あまり活用しなかった ④ 活用しなかった ※①②と回答した場合は，質問4～8，10～13に御回答ください。 ※③④と回答した場合は，質問9～13に御回答ください。
質問4	※質問3で①②と回答した場合 どのように活用したか，具体的に書いてください。
質問5	活用したときの児童生徒の反応はどうでしたか。 ① よかった ② どちらかといえばよかった ③ どちらかといえばよくなかった ④ よくなかった
質問6	※質問5で①②と回答した場合 どのような反応が見られたか，具体的に書いてください。
質問7	※質問5で③④と回答した場合 その理由や原因について，具体的に書いてください。
質問8	研修講座を活用した後，あなた自身の行動はどのように変容しましたか。 ① 研修内容を生かし，新たな課題を見つけて取り組んでいる ② 研修内容を別の方法で活用しようとしている ③ 取組の成果や課題について振り返っている ④ 今のところ一度きりの活用にとどまっている
質問9	※質問3で③④と回答した場合 その理由や原因について，具体的に書いてください。
質問10	研修講座を受講後，学んだことを所属校の他の教職員にも周知するための取組を行いましたか。 ① 校内の研修会や授業研究会等の場で説明した ② 説明は行っていないが，資料等を配付した ③ その他の方法により周知した ④ 周知するための取組を行っていない
質問11	※質問10で①②③と回答した場合 他の教職員の反応はどうでしたか，具体的に書いてください。

質問12	※質問10で④と回答した場合 その理由や原因について具体的に書いてください。
質問13	学校現場における授業の活性化につなげるには、本研修の在り方をどのように工夫・改善すればよいか、具体的に書いてください。

2 成果の分析, 評価等

(1) 教職経験年数について

本研修の受講者の教職経験年数についての集計結果を、表2に示す。

質問1	あなたの採用後の経験年数はどれですか。
	① ～10年 ② 11～20年 ③ 21～30年 ④ 31年～
	※講師・助教諭の方は、①を選択してください。

表2 受講者の教職経験年数

	①	②	③	④
回答数(人)	54	40	17	9
割合(%)	45.0	33.3	14.2	7.5

本研修の受講者の教職経験年数について、「① ～10年」「② 11～20年」が中心となっているのは、10年経験者研修の選択研修になっていることによる。

(2) 受講した研修講座について

各研修講座における受講者数を、表3に示す。

表3 各研修講座における受講者数

No.	講座名	人数(人)
1	地形図の読み方と利用法	3
2	絵本とその読み聞かせで学力をつけ、いじめを防ぐ	29
3	言語活動の充実に着目した音楽授業の工夫	9
4	コーディネーション運動と巧みな動きづくり	5
5	身近な調理や食物の科学実験・実習	2
6	国語科教材研究の方法と実際	14
7	初等幾何からわかること、そしてその先	1
8	国際理解教育入門	2
9	フィンランドの学校英語教育：成功の背景を探る	6
10	徳島県の地質と自然災害	3
11	英語教育における「物語」の活用例～教室英語から引き込む楽しい物語の世界へ～	3
12	コンピュータを利用した数学教材づくり	2
13	いじめ問題の心理学的理解と指導・援助	4
14	幼児の心理と教育方法	10
15	アベノミクスと日本経済・地域経済	3
16	楽しい書写・書道授業～教材への工夫～	6

17	徳島県農業の現状と園芸作物栽培等の実際	9
18	教員のための博物館の日in徳島～授業に役立つ！博物館活用入門～	24
19	太陽の表面，惑星や星座の観察並びにその動き	4

特に、「絵本とその読み聞かせで学力をつけ、いじめを防ぐ」と「教員のための博物館の日in徳島～授業に役立つ！博物館活用入門～」において、受講した人数が多かった。

これは、これらの講座が、演習を中心とした内容であり、また、特別活動等においても、広く使えるものであったためと考えられる。

(3) 授業等における活用について

研修講座を受講後、学んだことを授業等においてどの程度活用したかについての集計結果を、表4に示す。

質問3	研修講座を受講後、学んだことを授業等においてどの程度活用しましたか。			
	① 大いに活用した	② ある程度活用した	③ あまり活用しなかった	④ 活用しなかった

表4 授業等における活用の程度

	①	②	③	④
回答数(人)	25	47	29	19
割合(%)	20.8	39.2	24.2	15.8

研修講座を受講後、学んだことを授業等においてどの程度活用したかについての質問に対して、「① 大いに活用した」「② ある程度活用した」の合計は60.0%、「③ あまり活用しなかった」「④ 活用しなかった」の合計は40.0%であった。

(4) 活用したときの児童生徒の反応について

活用したときの児童生徒の反応についての集計結果を、表5に示す。

質問5	活用したときの児童生徒の反応はどうでしたか。			
	① よかった	② どちらかといえばよかった	③ どちらかといえばよくなかった	④ よくなかった

表5 活用したときの児童生徒の反応

	①	②	③	④
回答数(人)	38	33	0	1
割合(%)	52.8	45.8	0	1.4

活用したときの児童生徒の反応についての質問に対して、「① よかった」「② どちらかといえばよかった」の合計は98.6%に対し、「④ よくなかった」はわずかに1.4%であった。

(5) 行動の変容について

研修講座を活用した後、受講者である教職員の行動がどのように変容したかについての集計結果を、表6に示す。

質問8	研修講座を活用した後、あなた自身の行動はどのように変容しましたか。			
	① 研修内容を生かし、新たな課題を見つけて取り組んでいる	② 研修内容を別の方法で活用しようとしている	③ 研修内容をほとんど活用していない	④ 研修内容を全く活用していない

- ③ 取組の成果や課題について振り返っている
- ④ 今のところ1度きりの活用にとどまっている

表6 研修講座を活用した後の受講者である教職員の行動の変容

	①	②	③	④
回答数(人)	25	32	13	2
割合(%)	34.7	44.4	18.1	2.8

研修講座を活用した後、教職員の行動がどのように変容したかという質問に対して、「① 研修内容を生かし、新たな課題を見つけて取り組んでいる」が34.7%、「② 研修内容を別の方法で活用している」が44.4%、「③ 取組の成果や課題について振り返っている」が18.1%、「④ 今のところ一度きりの活用にとどまっている」が2.8%であった。

(6) 他の教職員への周知について

研修講座を受講後、学んだことを所属校の他の教職員にも周知するための取組を行ったかについての集計結果を、表7に示す。

質問10 研修講座を受講後、学んだことを所属校の他の教職員にも周知するための取組を行いましたか。	
①	校内の研修会や授業研究会等の場で説明した
②	説明は行っていないが、資料等を配付した
③	その他の方法により周知した
④	周知するための取組を行っていない

表7 所属校の他の教職員への周知

	①	②	③	④
回答数(人)	11	15	44	50
割合(%)	9.2	12.5	36.7	41.6

研修講座を受講後、学んだことを所属校の他の教職員に周知するための取組を行ったかという質問に対して、「① 校内の研修会や授業研究会等の場で説明した」が9.2%、「② 説明は行っていないが、資料等を配付した」が12.5%、「③ その他の方法により周知した」が36.7%、「④ 周知するための取組を行っていない」が41.6%であった。

Ⅲ 考察

1 今回のアンケート結果より

(1) 授業等での活用について

質問3の結果から、学んだことをどの程度授業等で活用したかについては、「① 大いに活用した」、「② ある程度活用した」の合計は、60.0%であった。

さらに、質問3で①②と回答した人に対して、質問4では、授業等において具体的にどのように活用したかについて質問し、その主な記述内容をまとめると以下ようになった。

【研修内容の活用状況】

- ・ 高等学校2学年地理Bの地図の活用と地域調査の単元において、地形図を使用し、等高線

の読み取りを行った。その際、研修で学んだ地形図の特徴を生徒に分かりやすく伝えられた。

- ・実際の教材研究の際、研修で教わった方法で行った。
- ・いじめの予防や、いじめの発見に努める手立てとして活用できた。
- ・実際にいじめの事例はなかったが、問題行動があったときに、どう対処すればよいかを他の先生方と話し合った。
- ・人文コースで、出前授業や貸し出しについて、具体的に教えていただいた。現在の担当学年では活用できなかったが、他学年の先生に紹介したところ、出前授業を実施したようだ。
- ・教えていただいたことを、そのまま生徒に授業で話した。
- ・講座で作った作品などを実際に児童に見せて書写の楽しさを伝えた。
- ・新聞の読み取りやソーシャルスキルトレーニング、国語科での読み取りなど、事実を探して読み取る学習に生かした。

これらの回答によると、受講者が自身の授業や教材研究において、受講の成果を活用している事例が見られ、研修で学んだことが授業力の向上や指導法の充実に役立っていることが分かる。このことから、本研修講座は、自らの授業力を向上させようという意欲に応える研修になっているといえる。また、生徒指導に関わる研修では、いじめ予防等における手立てとして活用している事例が見られた。校内研修会等の機会に、研修講座で学んだ内容を他の教職員に伝達したり、教科会等で伝達したりする事例も見られた。それを他の教員がさらに活用する事例もあった。

質問5では、研修で学んだことを授業で活用することによって、児童生徒にどのような反応があったかについて質問した。さらに質問5で「① よかった」「② どちらかといえばよかった」と回答した人に対して、質問6では、どのような反応が見られたかについて質問し、その主な記述内容をまとめると以下ようになった。

【児童生徒の良好な反応】

- ・作業を取り入れることで、興味・関心が増し、意欲的に取り組んだ。
- ・普段行っている運動に加えて行ったため、生徒も新鮮そうな感じで楽しそうであった。
- ・生徒が相互に交流して、意見を交換し合うときに、たくさんの意見を書き、授業が活性化した。
- ・授業の受け手の表情が生き生きとして、反応も好意的でよかったように感じた。
- ・学習を通して、地球が誕生してからの時間や生物の多様性などへの興味が高まった。

これらの回答から、教職員が、講師から学んだ専門分野の最新の知識や体験した実技を、授業で活用することによって、児童生徒に良い影響を与えていることが分かる。児童生徒にとっては、研修の成果を取り入れた新たな方法での授業により、新たな学びを発見し、学習に対する興味関心が高まり、学習意欲の向上につながったと考えられる。また、児童生徒の反応が良くなったことが、結果として授業の活性化につながったとの回答も見られた。このことは、本研修講座の受講が、授業の活性化につながることを示す一つの事例といえる。

一方、質問5で「③ どちらかといえばよくなかった」「④ よくなかった」と回答した人に対して、質問7では、その理由や原因について質問し、その主な記述内容をまとめると以下ようになった。

【児童生徒の反応がよくなかったと回答した理由・原因】

- ・現在は、担任を持っていないので授業では活用しなかったが、校内研修では教職員には伝達講習を行った。
- ・教科書で紹介されていないようなことだったため。

否定的な回答となったのは、前述のとおり、本研修は10年経験者研修の選択研修であるとともに、全ての教職員を対象とした希望研修でもあるため、その教科を担当していない教員も選択することができることから、場合によっては、すぐに活用できる状況にないことも考えられる。また、研修講座の内容によっては全ての内容が教科書に沿ったものではないため、このような回答が見られたと考えられる。

(2) 授業等で活用しなかった理由について

質問3で、「③ あまり活用しなかった」「④ 活用しなかった」と回答した人に対して、質問9では、その理由について質問し、その主な記述内容をまとめると以下のようになった。

【活用しなかった理由・原因】

- ・授業の中で活用する場面が十分取れなかった。
- ・講義内容は具体的であったが、自分自身が活用する余裕が持てなかった。
- ・活用するような事象が発生しなかったため。
- ・日々の教育課程を消化するのに精一杯だった。
- ・今年度は、見学させていただいた分野の授業を受け持っていなかったため、あまり活用する機会がなかったが、今後、対象の学年を受け持ったときには、活用させていただきたいと思った。

実際に授業で活用する場面がなかったり、日々の教育活動を行うのに精一杯で活用する余裕がなかったりするという記述が複数見られることから、できるだけ授業で活用しやすい内容にするよう講座の内容を工夫する等の対策が必要と考える。また、現在授業を担当していない場合や授業の進度との間にずれがあることが記述されているが、これらについては、将来的には研修の成果を活用する場面があることも考えられる。

(3) 教職員の変容について

質問8の回答から、研修講座を活用した後、教職員の行動がどのように変容したかを見ると、研修講座を受けたことをきっかけに、新しい課題を見つけて積極的に取り組もうとしていたり、所属校の児童生徒の実態にあった別の方法を自ら見出して活用しようとしている等、具体的な行動に結びついている場合が多かった。また、具体的な行動に結びつくまでには至っていなくても、成果や課題を振り返ることで、内面的に変容が見られるものもあった。

全体としては、97.2%の教職員が研修を受けた前後で、行動に変容があったと回答しており、本研修講座を受講することにより、教職員自身が新たな学びを発見し、それをきっかけに学んだ成果を活用しようとする等の変容があったことが分かる。

このことから、本研修を受講した教職員においては、自ら学び続けようとする姿が見て取れる。日々、児童生徒に対して教育活動を行っている教職員として、自らの資質を高めようとする姿勢は、全ての教職員に期待されるものである。

(4) 他の教職員への周知について

質問10から、大学・研究機関等研修の受講内容を他の教職員へ周知した割合は、58.4%であった。質問10で「① 校内の研修会や授業研究会等の場で説明した」「② 説明は行っていないが、資料等を配付した」「③ その他の方法により周知した」と回答した人に対して、質問11では、他の教職員の反応について質問し、その主な記述内容をまとめると以下のようになった。

【受講内容の周知の際の他の教職員の反応】

- ・これまでにこの講座を受けた先生は多くいて、会話が弾み、様々なとらえ方や意見を聞くことができた。
- ・他の教職員に研修内容を紹介したところ、興味をもって聞いてもらった。
- ・関心をもってくれて、自分も試してみると言ってくれた先生もいた。
- ・教科会で共有し、今後の授業に生かせるという話になった。
- ・研修内容がきっかけで、いじめ問題についてどのように対処すれば良いのかという話し合いが深まった。
- ・紹介した出前授業を実施していた。社会科の学習に役立った。

本研修は、受講者本人の各教科等に関する専門性を高めることに加え、受講後に、所属校の他の教職員に校内研修会や教科会等で伝達して、成果を広げてもらうことも目的としている。アンケート結果から、受講内容を他の教職員へ周知することにより、実際に活用されたり、共通理解が深まったりしている事例が見られ、様々な波及効果があることが分かった。

一方、質問10で「④ 周知するための取組を行っていない」と回答した人に対して、質問12では、その理由を記述してもらった。

【周知の取組を行わなかった理由・原因】

- ・時間をとることができなかったから。
- ・個人的な資質向上のために研修講座に参加したから。

特に、時間的な余裕がないとの回答が多く見られた。このことから、教職員が日々の校務で多忙であり、時間的な余裕がない様子が窺えた。

各校とも、それぞれ事情も異なり、校内研修会についてもすでに年間計画が組まれている中で、時間確保が困難であることが考えられるが、より多くの教職員が各所属校において、研修の成果を周知してくれることを期待したい。

2 講師へのアンケートより

講師を務めた大学・研究機関等の先生方が、受講生である教職員に、どのような力を身に付けて欲しかったかを明らかにすることを目的として、本研修の講師を対象に記述式のアンケート調査を実施した。ただし、研究の都合上、平成27年度の本研修の講師を対象に実施した。

質問1 今回の研修講座を通して、受講生（教員）にどのような力を身に付けて欲しかったか、お聞かせください。
--

【主な回答】

- ・子どもが環境を通して学ぶことの具体的な内容や、その学びを深めるために保育者がどのような意図をもって子どもに関わり、環境を設定していくかについて考察・省察する力を付けて欲しい。
- ・国語科における教材分析力、多様な解釈を予想する力。
- ・生徒の読む力、書く力が最近弱くなっているので、英語という言語の言葉ひとつひとつの持っている意味を理解しつつ、読むことのおもしろさを、例えば物語のおもしろさに結び付けて生徒の自立的な学習へのきっかけにできるような力を付けていただきたいという思いで講座を開きました。
- ・徳島県内や日本各地で発生した自然災害の被災事例を学ぶことで、今後起こるであろう自然災害から、生徒・児童を守る力を身に付けて欲しい。

講師の方からは、身に付けて欲しい力として、考察・省察する力、教材分析力、生徒の自立的な学習のきっかけにできるような力、自然災害から児童生徒を守る力等が挙げられていた。これらは、授業実践をはじめとする学校の様々な教育活動において活用できる力であるといえる。

質問2 今回の研修講座の成果は、受講生（教員）の今後の指導等にどのように活用して欲しいとお考えですが、お聞かせください。

【主な回答】

- ・話し合いの場面において、学習者の読みに柔軟に対応したり、発問や学習課題を考えたりする時の手がかりとして、活用してもらえればと思います。
- ・遠足や授業等で、博物館を一層活用してもらうことによって、授業等学習の充実につながり、児童生徒の実感を伴う理解の手助けになったらと考えています。また、児童生徒が徳島県の自然や歴史・文化を知り、郷土への誇りを持ってくれば良いと思います。
- ・学説がどのような論理に基づいて構築されているのかという観点から、判例や歴史的資料を詳細に参照し、客観的な解釈論の在り方にこだわって講義をさせていただいた。主観的価値判断の児童生徒への押し付けという教育内容に陥ってしまうことがないように、学説内容を正確に把握した上で、児童生徒の主体的思考を促すことができるような教育に努めていただきたい。
- ・それぞれの学校ごとに起こりうる自然災害の種類や危険性が異なる各学校ごとの防災体制の構築と実施に活用して欲しい。

講座によってそれぞれ特色があり、多様な回答がされていたが、講師の先生方は、研修講座で学んだことを実際に授業で生かして欲しいと考え、そのことをねらいとして開講されたことが分かった。

IV 研究の成果と今後の課題

1 成果

大学・研究機関等研修の成果としては、研修講座の成果を実際の授業で活用することによって、

受講者である教職員の授業力の向上につながることや、授業の活性化につながる事例が見られたことが挙げられる。また、研修に関係した教材研究を通して教材への理解がさらに深まり、授業方法の改善等につながったのではないかと考えられる。

研修講座の成果を活用した授業を受けた児童生徒にとっては、学習意欲の向上や興味・関心をもつことにつながっている事例が見られた。本研修の成果が児童生徒にもよい影響を与えていることが、本研究を通して明らかになった。

2 課題

課題としては、研修成果をさらに活用することや各所属校においてさらに周知を行うことが挙げられる。活用できなかった理由として、十分な時間が確保できなかったというものが多かった。日々の校務は忙しいが、活用できるものから少しずつ授業等に取り入れていけば、活用状況の改善につながると考える。

各所属校での校内研修会に取り入れるなどにより、研修成果を他の教職員へ周知することは、学校の教育活動の活性化につながるものであると考える。伝達講習会の形では実施できないとしても、研修講座で配付された資料の回覧や、学年会や教科会等のより小さい単位での周知も有効である。

3 改善策

質問13では、大学・研究機関等研修の改善点について質問を行った。その主な記述内容を以下に示す。

【改善に関する記述】

- ・開設される講座は、どれも興味深いものが多いです。もっと、広報をしていただくとよいと思います。
- ・研修内容についてもう少し広報があれば、受講者が増え、教員の専門性が高まるかもしれないと感じた。
- ・研修が実施される日時や研修内容を事前に周知することが必要だと考えます。
- ・教科書の内容で取り組める実践例を示していただけると活性化につながると思います。
- ・教員自身の学問に対する意欲、関心を高められるような講座を続けて開講してほしい。
- ・実際の授業で実施できるようなことをしてくれると有り難いです。
- ・講座を受けた者が、他の教員に伝えることがまず大切だと思う。
- ・研修の受講者が他の教職員に伝え、学校全体で活性化につなげないといけない。

以上の記述から、本研修の存在を広報することによって教職員に認知させることが必要であることが窺える。

現在取り組んでいる広報の方法として、平成26年度からは、前年度末に、講座名、実施日、講師名、講座の概要等を記した年間計画表を全教職員分印刷し、各学校に配付するようにし、次年度がスタートする4月にすみやかに教職員一人一人に配付してもらっている。

今後、広報の方法をさらに改善することにより、受講者の増加に努力したい。

V おわりに

徳島県教育振興計画（第2期）では、本県教育を担う教職員に、探究力や教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力、専門職として高度な知識・技能、さらには、豊かな人間性や社会性等の総

合的な人間力を求めている。また、中央教育審議会の「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」においても、これからの教員に求められる資質能力として、「教員が探究力を持ち、学び続ける存在であることが不可欠である（「学び続ける教員像」の確立）」とされている。

本研究により、大学・研究機関等研修は、本県教育を担う教職員を支援し、学び続けようとする教職員を支援する有効な研修の一つであると考えられる。県と大学や研究機関等が連携することで実施している本研修講座は、教職員にとって、教科指導や生徒指導に関する理論的かつ学術的知見を得られたり、幅広く専門的な知識・技能の刷新を図ることができたりするなど、教職員の資質向上につながる非常に有意義な研修であると考えられる。今後とも、さらに多くの教職員が受講し、研修の成果を広めることにより、本研修がより充実したものとなるよう努めていきたい。

参考文献

- ・徳島県教育委員会「徳島県教育振興計画（第2期）」、2013年
- ・中央教育審議会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」、2012年

資料

平成26年度大学・研究機関等研修実施一覧表

No.	講座名	大学・研究機関等
1	地形図の読み方と利用法	鳴門教育大学
2	絵本の読み聞かせで学力をつけ、いじめを防ぐ	
3	言語活動の充実に着目した音楽授業の工夫	
4	コーディネーション運動と巧みな動きづくり	
5	身近な調理や食物の科学実験・実習	
6	国語科教材研究の方法と実際	
7	初等幾何からわかること、そしてその先	
8	国際理解教育入門	
9	フィンランドの学校英語教育：成功の背景を探る	
10	徳島県の地質と自然災害	徳島大学総合科学部
11	英語教育における「物語」の活用例～教室英語から引き込む楽しい物語の世界～	
12	コンピュータを利用した数学教材づくり	徳島大学工学部
13	いじめ問題の心理学的理解と指導・援助	徳島文理大学
14	幼児の心理と教育方法	
15	アベノミクスと日本経済・地域経済	四国大学
16	楽しい書写・書道授業～教材への工夫～	
17	徳島県農業の現状と園芸作物栽培等の実際	徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校
18	教員のための博物館の日in徳島～授業に役立つ！博物館入門～	徳島県立博物館
19	太陽の表面、惑星や星座の観察並びにその動き	阿南市科学センター